

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019年 5月

「彼を知るために」「天からの来訪者（Ⅱ）」「永遠の福音の位置」「さつま芋のかるかん」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

天からの来訪者 (II) 4

聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために 8

That I May Know Him

現代の真理

「永遠の福音の位置」 40

神の憐れみの最後の招き

力を得るための食事

「さつま芋のかるかん」 48

レシピ

お話コーナー

「アンナス、カヤパ、そしてサンヒドリンの前で (I)」 50

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019 年 4 月 7 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Istock on Front page, Sermon View on page

キリストの教育法 —ご自分と直接交わらせる—

(「教育」86-100より)

「世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。」(ヨハネ 17:6)。

教育者としてのキリストの方法について最も完全な実例は、最初の十二人の弟子たちの教育の中にみられる。この人たちには、重い責任が負わされることになっていた。彼らは、キリストの霊を吹き込まれる者として、またキリストが地上の働きを残さなければならなくなったときに、これを継続してゆくために必要な準備を受け得る者として、キリストから選ばれたのだった。キリストは何にもまして、ご自分と直接に交わらせるという有利な立場を彼らにお与えになった。この個人的な交わりを通して、キリストは、これらの選ばれた共労者たちに、ご自身を印象づけられた。キリストに愛された弟子ヨハネは、「このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし」と言っている(ヨハネ第一1:2)。

こういう交わり、すなわち、心と心、思いと思い、人と神とのこうした交わりを通してのみ、生命を与える力が伝えられるのである。この生命をあたえる力をさずけることが、真の教育の仕事でなければならない。生命は生命によってのみ生まれるのである。

救い主は、弟子たちを教育するのに、天地が創造された時に確立された教育制度に従われたのであった。

イエスの家族は、最初にえらばれた十二人の弟子たちと、なおその他、彼らの必要に奉仕するために時々彼らとの関係を持っていた少数の人々から成り立っていた。彼らは、家にいるときにも、食事のときにも、私室でも、畑でも、いつもキリストと一緒にであった。彼らは、キリストに同伴して旅をし、試練と艱難を分かち合い、できるだけ能力でキリストの働きにたずさわった。…

イエスの最初の生徒は、一般の人々の間から選ばれた。彼らは、貧しい無学なガリラヤの漁師であった。彼らはラビの学問や習慣についての教育は受けていなかったが、艱難辛苦というきびしい訓練によって鍛えられていた。彼らは、生まれつきの才能と、すなおな精神を持っていて、救い主の働きのために教えこまれ、育てあげられる人たちであった。…

十二人の弟子たちの中で、四人の者が、それぞれ独自の立場で、主要な役割を演ずることになった。すべてのことを予知なさるキリストは、これに備えて、弟子たちを教育された。剣にかかって早急な死をとげなければならない運命が待っていたヤコブ、兄弟たちの中で最も長い間主に従って働き、迫害をうけたヨハネ、長年の障害を打破して、異教の世界にキリストの教えを説く先駆者となったペテロ、同信の兄弟たちよりもりっぱな奉仕が可能でありながら、自分でも思いがけない方向へ発展していった意図を心の中に隠していたユダ—この四人は、キリストの特別な関心の的であり、キリストから何回となく注意深い教えを受けた人たちであった。

第10課 天からの来訪者(Ⅱ)

天使たちは、尊敬を受けることはしません。それはただ神にのみ与えられるべきものだからです。「これらのことを見聞きした者は、このヨハネである。わたしが見聞きした時、それらのことを示してくれた御使の足もとにひれ伏して拝そうとすると、彼は言った、『そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。』」(黙示録 22:8, 9)。

天使たちの働き

天使たちは絶えず神に仕え、神のご命令を実行するために全力を傾けています。セラピムとケルビムは神の御名を賞賛することによって神の存在を讃えています。

「互いに呼び交わして言った。『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ』」。(イザヤ 6:3)。

天使たちの重要な仕事は、地上にいる各個人の生活において生じたすべての事柄を記録することです。一つ一つの善やあるいは悪の行為は、確かにわたしたちの思いでさえ天における書物に記録されます。誤ったり、詳細が見過ごされたりすることはありません。そして各自はいつか地上における自分の生活について説明責任を果たさなければならないのです。

「そのとき、主をおそれる者は互いに語った。主は、耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書がしるされた。」(マラキ 3:16)。

生きているすべての人には、天使が付き添っています。誕生の日から死まで、この保護天使は警護し、励まし、その人の生涯におけるすべての出来事を記録します。

「あなたがたは、これらの小さい者のひとりをも軽んじないように、気をつけなさい。あなたがたに言うが、彼らの御使たちは天にあって、天にいますわたし

の父のみ顔をいつも仰いでいるのである」(マタイ 18:10)。

ペテロは、一人の天使によって牢獄から救出されました。それから彼は、自分のために祈ってくれていた信徒たちの家へ行きました。ペテロが解放されたことを悟る前にこの初期のキリスト教会は、戸口にいるのはペテロの保護天使であるという全会一致の信仰を叫んだのでした。最終的に彼らは天使が彼を助けたのだということを受け入れました。

「ペテロの声だとわかると、喜びのあまり、門をあけもしないで家に駆け込み、ペテロが門口に立っていると報告した。人々は『あなたは気が狂っている』と言ったが、彼女は自分の言うことに間違いはないと、言い張った。そこで彼らは『それでは、ペテロの御使だろう』と言った」(使徒行伝 12:14,15)。

天使たちは、わたしたちの現世の幸福に関心をもっており、多くの場合、忠実な神の民は、自分に付き添う天使たちによって物理的な危害から守られてきたのでした。天使たちは、常にわたしたちを善の側に感化を及ぼそうと努めており、わたしたちの心を神に向けるように努力しています。親愛なる友人のみなさん、あなたが今、この課を学んでいる現時点においても、あなたの天の保護者が信仰を強め、神の真理における理解を深めるために、あなたの傍らにいます。

神のみ言葉は、天使たちに関して数多くの体験について述べています。

エリシャはかつて敵の軍隊に囲まれたことがありました。自分の僕の恐怖を静めるために、エリシャは自分たちを守る天使の大軍を見ることができるよう自分の僕の目を開いて下さるよう祈りました。「エリシャはいった『恐れることはない。わたしたちと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから』。そしてエリシャが祈って『主よ、どうぞ、彼の目を開いて見させてください』と言うと、主はその若者の目を開かれたので、彼が見ると、火の馬と火の戦車が山に満ちてエリシャのまわりにあった」(列王記下 6:16,17)。

神の天使たちはたびたび、旅行中にあるわたしたちを守るように命じられます。「これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むべきすべての道であなたを守らせるからである」(詩篇 91:11)。

わたしたちに付き添う天使の保護は非常に綿密であるため、ダビデは次のように叫びました。「主の使は主を恐れる者のまわりに陣をしいて彼らを助けられる。」(詩篇 34:7)。

ダニエルがししの穴に投げ入れられたときにししの口をふさいだのは、ダニエ

ルに付き添っている天使でした。「わたしの神はその使をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。これはわたしに罪のないことが、神の前に認められたからです。王よ、わたしはあなたの前にも、何も悪い事をしなかったのです」(ダニエル 6:22)。

機会や状況に応じて、天使たちは様々な人に、時には神の民を防御する兵士として姿を現わしました。

「ヨシュアがエリコの近くにいたとき、目を上げて見ると、ひとりの人が抜き身のつるぎを手に持ち、こちらに向かって立っていたので、ヨシュアはその人のところへ行って言った、『あなたはわれわれを助けるのですか。それともわれわれの敵を助けるのですか』。彼は言った、『いや、わたしは主の軍勢の将として今きたのだ』。ヨシュアは地にひれ伏し拝して言った、『わが主は何をしもべに告げようとされるのですか』。」(ヨシュア 5:13, 14)。

天使たちは、人間の姿をとって人々の前に現れたとき、もてなしを受けました。「旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は、気づかないで御使たちをもてなした。」(ヘブル 13:2)。

危機の時代において、キリストは、ご自分の弟子たちに、もし必要であれば、神はキリストを守るために十二軍団の天使をつかわすことがおできになるとお告げになりました。(一つの軍団は 3 ～ 6,000 の兵士に匹敵します)。

「それともわたしが父に願って、天の使いたちを十二軍団以上も、今つかわしにいただくことができないと、あなたは思うのか。」(マタイ 26:53)。

この言葉からわたしたちは、もし必要であれば、神はご自分に従う愛する者の一人を罪や危害から救うために、全天を動員できるのだということを推察することができます。

イエスがこの地上に二度目に来られるときには、天の使たちがキリストに随伴します。「人の子はその使たちをつかわし、つまずきとなるものと不法を行う者とを、ことごとく御国からとり集めて、炉の火に投げ入れさせるであろう。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」(マタイ 13:41, 42)。

天使たちは滅ぼすために悪人を集めるだけでなく、天のために義人をも集めています。「また、彼は大きいラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるだろう。」(マタイ 24:31)。

天使たちと共に住む

神の天使たちは、いつもわたしたちの周りにいますが、わたしたちは彼らの存在に気がつきません。通常、彼らが人に見られることはありませんが、必要であれば、人間が見ることのできる姿をとることもできます。神に従う人が失望しているとき、自分一人で手ごわい敵に対して戦っているように見えるかもしれませんが、実際にはそうではありません。神は決してご自分の民をお見捨てになることはありません。もしわたしたちの目が開かれるなら、天の保護者たちが周りを取り囲んで、敵の攻撃からわたしたちを守ろうと待っているのを見ることでしょう。

わたしたちが、天の宮廷からのこれらの使者たちが絶えずそこにいることを悟るとき、天の書の自分の名前のところに記録されるような悪い事を何か行ったり、語ったり、考えたりすることがないように、どれほど注意深くなることでしょう！

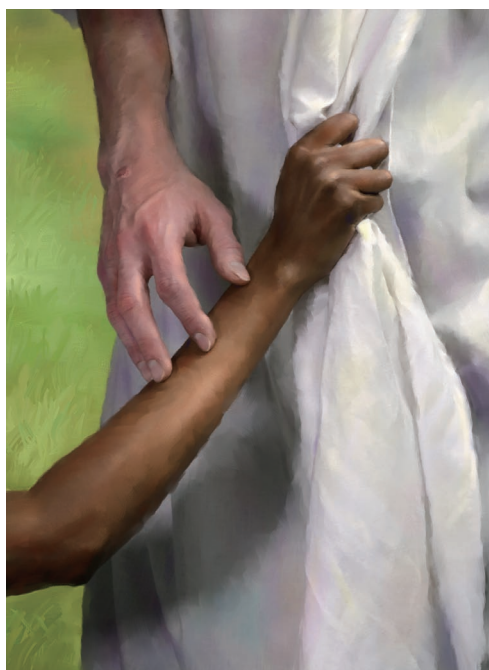
わたしたちが善ではなく悪を選択するとき、天使たちはどれほど悲しむことでしょう。「神の前で軽々しく口をひらき、また言葉を出そうと、心にあせってはならない。神は天にいまし、あなたは地におるからである。それゆえ、あなたは言葉を少なくせよ。…あなたの口が、あなたに罪を犯させないようにせよ。また使者の前にそれは誤りであったと言ってはならない。どうして、神があなたの言葉を怒り、あなたの手のわざを滅ぼしてよかろうか。」(伝道の書 5:2, 6)。

他方で、罪人が改心しキリストに屈服するとき、天使たちは喜びます。イエスは次のように言われました。「よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう」(ルカ 15:10)。

これらの天の保護者たちのゆえに神に感謝しましょう。また全天がわたしたちの救いに関心を持ち、あらゆる手段を尽くして、その救いを実現しようと努めていることに感謝しましょう。わたしたちに対するこの神の愛の驚くべき証拠についてあなたが考えるとき、あなたは自分に付き添っている天使と協力することを決心しないでしょうか。そうであれば、いつかあなたは天で、この近い天使の友人と顔と顔を合わせて言葉を交わすことができます。この天使は、あなたの地上での経験を非常によく知っているのです。

彼を知るために

That I May Know Him



5月

主の子らの傷

「このような祝福をもつ民はさいわいです。主をおのが神とする民はさいわいです。」(詩篇 144:15)

わたしは人類家族に対して表された主の大いなる慈愛と、あわれみ、また愛に対してわたしの主なる神に感謝する。わたしたちは快活さを発達させるべきであるとの印象を受けた。快活さとはどういう意味があるのだろうか。それはわたしたちの特権である平安と慰めを世に示すことである。陰鬱という影を身につけることは、わたしたちの主である救い主を辱めることであるが多くの人はそうしている。…

「天よ、耳を傾けよ、わたしは語る、地よ、わたしの口の言葉を聞け。わたしの教は雨のように降りそそぎ、わたしの言葉は露のようにしたたるであろう。若草の上に降る小雨のように、青草の上にくだる夕立のように。わたしは主の名をのべよう、われわれの神に栄光を帰せよ。主は岩であって、そのみわぎは全く、その道はみな正しい。主は真実なる神であって、偽りなく、義であって、正である。彼らは主にむかって悪を行い、そのぎずのゆえに、もはや主の子らではなく、よこしまで、曲ったやからである」(申命記 32:1-5)。

「ぎずのゆえに、もはや主の子らではなく」彼は神の息子、娘の品性を所有していない。精神、言葉、行為において神を愛し主の戒めを守る民とは思えない。「愚かな知恵のない民よ、あなたがたはこのようにして主に報いるのか。主はあなたを生み、あなたを造り、あなたを堅く立てられたあなたの父ではないか」「主の分はその民であって、ヤコブはその定められた嗣業である。主はこれを荒野の地で見だし、獣のほえる荒地で会い、これを巡り囲んでいたり、目のひとみのように守られた」(同上 32:6, 9, 10)。

ご自分の民への神の慈しみ、絶え間ない保護、また彼らをご自分へと導くために取ってこられた方法の知恵の富は、謙遜な心と魂の悔悟を尽くして主に仕える最も熱心な献身に表される感謝の捧げものを求める。主は恵み深い方であり、神に対する快活な感謝のうちに主の慈愛を知って表す民をお持ちである。神の慈しみを知る者はすべて幸福な民である。(原稿 66, 1896 年)

5月2日

あなたの告白に恥じない行動をする

「さて、主にある四人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き」(エペソ 4:1)

キリストは、主の名を受ける者が、精神、言葉、態度において、そのみ名をあがめることを求められる。思いと言葉、また行為において彼らはキリストのようであるべきである。クリスチャンであると言いながら、キリストの品性の徳を生活に表さない者は、救い主に敵対するあかしをしている。彼らはキリストを侮辱し、辱めているのである。…

人性をとっておられた時に表された主の美德は、真理の力の証拠である。主に従っていると言いながら、この美德を表さない者は…自分の告白が詐欺行為であることを知らねばならない。…告白するクリスチャンが、世の水準に落ちる時は、キリストの宗教を辱めてしまうし、また彼らは不忠実な者となる。このような者は神に逆らう者であり、主は彼を弟子と認めることはできない。

クリスチャンは神の共労者として、有利な地点に立たなければならない。しかし彼は決して自分を高めるべきではない。真理と義を愛さない者が示す誘いをはっきりと断るべきである。しかし、その拒絶は、キリストの精神によってなされるべきである。つまりパリサイ人のように「脇へよけなさい。わたしはあなたより清いのだ」という態度であってはならない。彼は、主イエス・キリストをたたえるために、最も聖なる告白によって、誓約しているので罪に加わることはできないということを示さなければならない。戒めと模範によって、聖書の原則から離れたすべての者に反対しなければならない。しかし、同時にキリストの愛を表すことにより、キリストの宗教を魅力あるものにすべきである。狂信的であると思われるような生活をするのではなく、キリストからさまよい出た者に、優しい愛情を表すべきである。…

キリストの精神で歩み、行いなさい。しっかりと、注意して立ちなさい。なぜならば、誘惑が来る。主の弟子たちは原則に鋼鉄のようにしっかりと立っているべきである。…

キリストの品性を表す者でありなさい。主はあなたの能力、また力となり、あなたが絶えずより頼むならば、偉大な報酬となってくださいであろう。(手紙 25, 1903 年)

各個人の働き

「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。」(コロサイ 2:6, 7)

クリスチャンと称する者がその名の通りであるべき時があるとすれば、それは今である。わたしたちは現実にキリストに従っているであろうか。…これは各個人の働きである。わたしたちは熱心に自分の立場と責任を見つめるべきである。…

現代の真理を知っている者は、聖書の教えに錨をおろしているであろうか。わたしたちの武器は、「主はこのような言われた…としるされている」というものであるだろうか。わたしたちの錨は、しっかりとおろされているだろうか。わたしたちは個人的に、福音の真理に根ざし、それを土台として信仰を確立し、強め、安定を得ているだろうか。わたしたちは、神の奥義を知っている者として、神の生ける言葉をいただいた者として、家づかしの職務に忠実であるだろうか。真の改心をした者は神の宣教師として、彼らの能力を改変し、清める力を真理が持っていることを表すであろう。

もしもわたしたちが永遠の真理の宝という重荷を負っているならば、罪に甘んじている世の中に、魂にキリストの清めと贖罪の愛を持つことの意味を明らかにするであろう。もしわたしたちが本当にキリストに結合しているならば、それは真理が魂の宮を所有しているからである。…

キリストに心の戸を開く者は、純粹で清く、また人を改変する真理を愛し、ひとたび聖徒に伝えられた信仰のために熱心に戦うのであろう。だれも神に、自己をゆだねるのに、部分的であつたり、物惜しみしてはならない。心の中で働きを始めなさい。他人の行為から目を離して、キリストに目を向けなさい。魂は、救われるか失われるかである。この問題は、無関心ではすまされないほど重要である。

聖書の中にある最も熱心な祈りの一つは、「神よ、わたしのために清い心をつくってください、という言葉である(詩篇 51:10)。そしてわたしたちを愛して、わたしたちのためにご自分の命を与えられた方から、「わたしは新しい心をあなたがたに与え」という偉大で重要な保証をいただいている(エゼキエル 36:26)。(手紙 178, 1899 年)

5月4日

キリストの功績による完全

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

キリストは、生涯を通して到達しなければならないクリスチャンの品性の最高の完全性をわたしたちに示しておられる。…この完全について、パウロは「わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。…目標をみざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の賞与を得ようと努めているのである。…」と言っている(ピリピ 3:12－15)。…

わたしたちはいかにして救い主イエス・キリスト—わたしたちの偉大なる教師によつてはつきりと記された完全に到達できるだろうか。主のご要求に応じ、高い標準に到達できるだろうか。わたしたちはできる。さもなければキリストは、わたしたちにそうするようにお命じにならない。主はわたしたちの義である。主は人性をとつて、わたしたちの前を歩まれ、品性の完全さをわたしたちのために達成してくださったのである。わたしたちは愛によつて働き、魂を清める主を信じる信仰を持たなければならない。品性の完全はわたしたちのために置かれたキリストの土台の上に築かれているのである。救い主のいさおしに絶えず依存して、み足のあとを歩くなら、わたしたちは主のように清らかで、汚れのない者になるであろう。

わたしたちの救い主は、不可能なことを要求なさらない。主は弟子たちに、恵みの力を与えずに任務を果たすようにはお求めにならない。主は、高く聖なる特権を与えようと思っておられる者たちに授けるように、あらゆる恩恵の完全さを持つておられなかったなら、完全になることをお求めにならなかったであろう。主は求める者たちに、両親がその子供によき賜物を与える以上に、喜んで聖霊を与えると言明しておられる。

わたしたちの働きは、キリストが地上の生涯を通じて、品性の各面で到達されたように、わたしたちの行いの各面において完全に到達するように努力することである。主はわたしたちの模範である。何にもまして品性において主をあがめるように努力すべきである。毎日失敗を繰り返して、聖なる要求に達しないならば、わたしたちの魂の救いは危険にさらされる。キリストがわたしたちに与えて下さった特権を理解し、感謝して、最高の標準に到達する決心を示す必要がある。主がわたしたちに与えると約束してくださった力に、完全により頼むべきである。(原稿 148, 1902 年)

神聖な科学

「そして、どうか、わたしたちの主イエスが、そのすべての聖なる者と共にこられる時、神のみまえに、あなたがたの心を強め、清く、責められるところのない者にして下さいように。」(テサロニケ第一 3:13)

福音によって教えられる道徳は、神のみ心、神の意志の完全さ以外は認めない。神は被造物に神の意志と一致することを求められる。品性の不完全さは、罪である。そして罪は律法の違反である。品性のあらゆる義の特質は、完全な、全体に調和のとれたものとして、神の中に宿っている。キリストを個人的救い主として受け入れるすべての者は、これらの特性を持つ特権がある。これが聖潔の科学である。…

神の栄光はそこ品性である。…この品性は、キリストの生涯に表された。主はご自身の模範によって、肉にある罪をとがめるために、罪の肉の姿を、ご自身にお取りになった。絶えず主は、神のご品性を見つめ、絶えずこの品性を世に示された。キリストはご自分に続く者が、生活にこれと同じ品性を表すことを望まれる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1902 年 9 月 3 日)

神は世の前でわたしたちを、男女がキリストの恵みによってどのようなものになれるかについて生きた証人として成長させておられる。わたしたちは、品性の完全のために努力するように命じられている。聖なる教師は「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と言われる(マタイ 5:48)。キリストは不可能なことを要求してわたしたちを困らせようとするのだろうか。決してそうではない。み父が天で聖であられるように、わたしたちも自分の領域で聖であるようにと、わたしたちに恵みを与えられるのは、なんという名誉であろう。主はわたしたちにそれができるようにしてください。「わたしは、天においても地においてもいっさいの権威を授けられた」と主は言われた(マタイ 28:18)。この無限の力はわたしたちの特権として与えられる。…

神は、正しく神の品性をあらわす者と共に働かれる。彼らによって、主はみ心を天になされるように、地にもなされる。…

神の意志に、一致するように常に努力し、クリスチャンの品性の完全に向かって進むのがわたしたちの生涯の仕事である。日々、わたしたちは前進し、「そしてあなたがたは、キリストにあつて、それに満たされているのである」と言われるまで前進すべきである(コロサイ 2:10)。(同上)

5月6日

キリストにつながること

「わたしにつながっていないさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながって
いよう。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことがで
きないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができな
い。」(ヨハネ 15:4)

「わたしにつながっていないさい。」という聖句は非常に意味深い言葉である。キ
リストにつながることは、愛によって働き、魂を清くする、生きた、熱心な、はつ
らつとした信仰を意味する。それは、キリストの霊を絶えず受けること、また生
活すべてを主の奉仕のためにささげることを意味する。この結合が存在する所には
良い働きが現れる。ぶどうの命は、枝になる香り高い果実に現れる。キリスト
の恵みの絶えざる供給は、あなたがたを祝福し、パウロが「わたしはキリストと共に
十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストがわ
たしのうちに生きておられるのである」(ガラテヤ 2:19, 20) ということができる
まであなたがたを祝福する。

キリストとの聖なる結合は、クリスチャン交友の最も親しい帯で兄弟たちを結
ぶ。彼らの心は聖なる愛情で互いに触れ合う。…冷たさ、不和、争いはキリスト
の弟子たちの間には存在しない。彼らは一つの信仰を受け入れた。同じ主に仕え
るようになり、同じ目的のために努力し、同じ目標において勝利するために一緒
になった。彼らは同じ尊い血で買い取られ、救いの同じ使命を伝えるために出て
行った。…

キリストから力を絶えず引き出す者は、主の御霊を所有する。彼らは、言葉や
態度に注意深い。救いが神の愛する御子の犠牲を価として支払われたものであ
ることを知った人は、魂に休みを得る。カルバリーの光景がはっきりと、生き生
きとした事件として、彼らの心に写し出される時、驚くほどのキリストの愛によ
って、彼らの心はやわらげられ、柔和にされるであろう。彼らは他の人を、主の尊
い血で買われた者として眺めるようになり、主と一致する者は、その一致によって、
高貴で、高められた、聖なる者として見られるであろう。カルバリーでのキリスト
の死は、主が評価されたように、わたしたちも魂を評価するように導く。主の愛は、
すべての男女子供の価値を大きくされた。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 3
月 23 日)

まことの実を結ぶ

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:5)

キリストは言われた「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である」「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」「わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりぞぎ、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである」(ヨハネ 15:1, 5, 2)。手入れされていない枝は、人の目にはよく見えても、まどろむことも、寝ることもなさらない方の目は、失望のうちに枯れるのを見過ごされぬ。偉大な農夫はそれを手入れし、永遠の命の実を結ばせるようにさせる。

クリスチャンであるといつも公言しながら、他人の目の前で公言という葉を絶えず見せびらかす人は、神に栄光を帰する真の実を結ばない。彼らの宗教生活や敬虔は、彼ら自身には十分なものに見える。彼らは感情を誇張し、熱烈さや最高の称賛を大げさに表現してきた。彼らの宗教は、ほとんど感情と興奮から成っている。彼ら自身の魂の中には、彼らの信仰の告白にこたえるものは、ほとんどない。彼らにとっての完全の理想像は自我である。彼らにとって他の人に与える外面的な印象の方が、神にあつてキリストに隠されている内なる生命より重要なのである。

主の言葉を行うことによって、キリストをあらわそうとする者はだれでもイエス・キリストに根ざし、真理に土台をおきなさい。自我の主張を取り除きなさい。キリスト・イエスの教訓に従って生活し、行うことによって、あなたがイエス・キリストに完全に服従していることを証しなさい。

品性の形成は、日々刻進めなければならない。聖霊の内なる働きは、神の栄光に対して実がつき、熟し、完全になるまで成長することによって外に現れる。内なる命は、外面に現れる行動、すなわち豊かに実を結ぶことによって証される。これは、自分を暗闇から驚くべき光の中へと招き入れて下さった方を讃美することである。もし、栄光の望みである主イエスが、内面に形成されるなら、善行において富む者となり、信じる者と告白する真理に應える者となる。(原稿 62, 1896 年)

5月8日

わたしたちの前にある輝かしい可能性

「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。」(ピリピ 2:5)

墮落した人類の前に何と輝かしい可能性が置かれているのだろう。御子によって神は、人間が到達できる最高の美德を示された。キリストの功績によって、人間は墮落した状態から上げられ、清められ、オフルの金のくさびよりも尊いものとされた。栄光の内に天使と交わる可能性が、そして、イエス・キリストのみ姿を反映する可能性が人に与えられている。…しかし、神に自分の歩みを導いていただくなら人が到達できる高さに気付いている者が何と少ないことであろう。

神は、人が、自分の個性を生かすことを許されている。主は、人がだれも自分の心を、有限な他人の心に従わせることを望まれない。心と品性を改変されたいと望む者は、人を見ないで天の模範を見なければならない。神は「キリスト・イエスにあって抱いているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互いに生かしなさい」と勧めておられる。改心と改変によって、人はキリストの心を受けるべきである。キリストが内面に栄光の望みとして形造られたことを知る個人的信仰と、個人的経験を持って、各自は神の前に立たなければならない。…

わたしたちには模範として、すべての者にあってすべてであられ、万人にぬきんで、比類のない最高の美德を持っておられる方がおられる。主は慈愛のゆえにご自身の生涯を全世界の模範とされた。キリストの中には、富と貧しさ、大権と屈辱、また無限の力と、柔和とへりくだりが結合している。この柔和とへりくだりは、主を受け入れたどの魂の中にも反映されるのである。…

キリストが、わたしたちのために与えられた栄誉をもっと十分にわたしたちが感謝できるはずである。主のくびきを負い、主に学ぶことによって、わたしたちは、志において、柔和と謙遜において、品性の香りにおいて、主のようになる。そして、最高のお方として神に讃美と誉と栄光を帰しながら神と結合する。この人生で、彼らの高い特権に生きる者は来世において、永遠の報酬を受ける。忠実であるならば、神と、小羊を讃美する歌に和して、天の音楽家たちと、麗しき歌をうたうであろう。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1902 年 9 月 3 日)

到達するには限りない高さ

「それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。」(ペテロ第一 1:13)

「あなたの心の腰に帯を締めなさい」と使徒は言っている。つまり、あなたの思いを統御し、無制限に放っておいてはならない。思考は断固とした努力によって、守り、統御することができる。正しい考え方をしなさい。そうすれば、正しい行為をすることができる。それから情熱を押さえて、ほとぼしるままにせず、不適当な対象にそれがおもむかないようにしなければならない。イエスは、ご自身の命であなたを買い取られた。それだからあなたの至高の力、心の情熱をどのように使ったらよいか、すべてのことで主に相談すべきである。…

キリストの恵みによって、あらゆる悪い傾向は、気力や決断力を失うことなく、しっかりした目的と、キリストを模範とする気高い決心を持って抑制される。あなたの愛は、キリストが愛されたものに向けられ、力を正しく推進させないすべてのものを拒むものでなければならない。労を惜しむことなく、日々学び、品性を改良しようとしなさい。あなたはしっかりした目的に向かって進み、神が、あなたを喜ばれると思うものにいそしまなければならない。(ユース・インストラクター 1886 年 4 月 21 日)

神と天の思想は、高貴である。あなたが到達できる高さには制限がない。それは、底のない水の中を泳ぐようなものである。…キリストの純粋な宗教の中には、軽んじられるものは何もない。受け入れられた福音は人間の理解の高慢を屈服させ、人間の尊大さを低くする。そして神のみが高められる。しかし、その中には知性を發育不良にしたり、力を弱めたりするものはない。…真の宗教は知力を引き出し、発達させる。罪の悲しみと悔い改め、自己放棄、キリストの血の功績への信頼は、個人個人を前よりもっと思慮深く、知的にする経験を与える。神に注意を向けることによって知的に愚かになる者はいない。神との交わりは、あらゆる真の知恵との交わりである。(手紙 17, 1878 年)

5月10日

キリストの尊さ

「その言葉は、はなはだ美しく、彼はことごとく麗しい。」(雅歌 5:16)

わたしたちは、キリストの魅力をわたしたちのクリスチャンの奉仕の中に持ち込むべきである。わたしたちは義の太陽のやわらかい光が、わたしたちの心の中を照らすべきである。こうして喜ばしく快活になり、周囲の者に祝福を与える強い影響力を持つことができるためである。

イエス・キリストの真理は、憂鬱や悲しみには向かわない。…わたしたちは目を不愉快なことからキリストに移さなければならない。主をもっと愛し、主の美しさ、品性の高さをもっと得て、他人の失敗や、誇りを考えない者にならなければならない、ということをわたしたちは覚えているべきである。わたしたちはくり返し過ちを犯す。…イエスの他に完全な者はいない。主について考え、自己や、不愉快なことから関心を取り去りなさい。なぜならば自分の欠点を見つめれば、信仰は弱くなり神とそのみ約束は、視野から消えてしまう。…

神が与えられた能力を、神からの知恵と、霊的力を求めるためにささげるならば、なんという深い経験が与えられることであろう。…わたしたちは、神との交わりについて、いかに知らないことだろう。来世の生活の神秘についても少しも知っていない。もし、わたしたちの力が清められて、キリストの品性を知ることができたなら、なんともっと多くのものを知ることであろう。

もしわたしたちが、世の光になろうとするならば、わたしたちの前には到達すべき高さ、経験の深さがある。…心を低くしなさい。そうすれば祝福されたみ約束の天の麗しさを得ることができる。イエスを信じ、世の中がこれまでに知った中で最も偉大なる教師の学校で学びなさい。そうすれば、主の恵みは、人間の知性と心に力強く働くであろう。主の教えは、心の幻を清める。それは、思想に視野を与え、魂の飢えを満たす。心は、穏やかにされ、謙遜になり、失望落胆、苦しみ、試練も消すことのできない成長する愛によって満たされる。神は心の目に対して主の尊さやその完全さを明らかにして下さる。だから愛し、労しなさい。わたしはあなたに、千歳の岩、キリストを指し示す。(原稿 24,1892 年)

自分の言葉の影響

「そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。」(コロサイ 3:17)

人間は、自分の言葉に非常に影響されている。あなたは自分の言葉にどれくらい影響されているか気づいていない。あなたは、あなた自身の話し方を持っている。そしてあなたの思想と行動は、その言葉の通りになっている。人は自分の立場で、物事を主張しがちである。そしてついにはそれを信じるようになる。わたしたちの思想は、わたしたちの言葉を生み出し、わたしたちの言葉はわたしたちの思想に作用する。もし人が聖なる言葉を敬虔に使う習慣をつくるなら、発言された言葉に対し、聖なる目撃者がいるということを知って、注意深く話すようになる。感情が刺激されると言葉は誇張され、話し方はいつも極端になる。それは、私自身に跳ね返ってくる。

み言葉は、「あなたは自分の言葉によって正しいとされて、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」(マタイ 12:37)と言明している。もしわたしたちの言葉が、わたしたち自身に作用するならばそれはもっと強力に他人に作用する。語られた言葉によって、大きな悪影響が与えられている。神のみが不注意で大げさな話し方の結果をご存知で裁かれる。心の中でなされた多くの呪いがある。…

あなたは他人の中にあなた自身の品性を再生している。あなたは、誤った道に導きいれるような一連の思想を他人の心に生み出すようなことを多く言い表しているかもしれない。神は、あなたが激しい感情を克服し、分別ある思想を持つに至るために、あなたを容認しておられるかもしれない。あなたは、疑いを乗り越え、神への悔い改めとイエス・キリストを信じる信仰を通して、自分を捕らえる者の罠から逃れることができる。あなたは、信仰の日の光の内を歩むことができる。しかし、あなたはこれらの言葉が、他の人の心の土壌に害のある働きをなし、毒していることに気づかない。だれかが刈り取らなければならない収穫がある。……

キリスト・イエスの標準を掲げ、すべての言葉を吟味し、それを塩で味つけなさい。真の気品を身につけ…あなたの言葉が、神の改心の力の影響を感じさせるものにしなさい。健全な言葉を語りなさい。(手紙 124, 1893 年)

5月12日

聖なる方が聞いておられる

「わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます。」(詩篇 139:4)

いつも主がわたしたちの近くにいてわたしたちのしていることをすべて見、また話す言葉をすべて聞いておられることに気付くべきである。…世的で、つまらないクリスチャンらしくない言葉は「異火」として表されており、神はこれを用いては何もおできにならない。甲高い騒々しい笑いは心の中で神を否定していることになる。なぜなら、それは真理が魂を支配していないことをあらわしているからである。…空しい言葉やクリスチャンらしくない模範を示すことによって、わたしたちは神を辱め、自分の魂を危うくするばかりでなく、わたしたちと交わる魂をも危うくする。

キリストが世に与えられた模範は、軽率で不真面目なものをすべて禁じている。そして生活がキリストの恵みで香りづけられていればこのような要素は現れてこない。心からの喜びや精神を高める影響力は、神を愛し、主の律法を守るすべての人から流れ出る。これは悔い改めと改心をもたらす。使徒は、「恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい」(ピリピ 2:12)と言っている。なぜ恐れおののいてであろうか。軽薄な言葉やからかい、また軽々しい言葉や冗談によって、あなたの聖なる信仰をあやまり伝えることがないように、そしてあなたが告白する真理は品性を清める影響力を持っていないと他の人に印象づけないためである。(ユース・インストラクター 1898 年 7 月 14 日)

わたしたちは、キリストに従う者として、互いのクリスチャン生活の助けとなり、励ましとなることばを語るようにしなければならない。わたしたちは、受けた恵みについてこれまでよりもっと多く語らなければならない。神のあわれみといつくしみ、救い主の愛のはかり知れない深さについて、語らなければならない。また、賛美と感謝をすべきである。心に神の愛があふれているならば、それが、会話にあらわれてくる。…

偉大な思想、高貴な抱負、明確な真理の理解、無我の精神、敬けんと清めに対する渴望などは、当然ことばとなつてあらわれ、心の中に秘められた宝がどんなものであるかを示す。こうして、キリストが、わたしたちのことばにあらわされるときに、その言葉は魂をキリストに導く力を持つようになるのである。(キリストの実物教訓 313)

自制の模範

「キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。」(ペテロ第一 2:22, 23)

クリスチヤンの高貴さの最高の証拠は自制である。わたしたちはイエスの模範を真似るべきである。彼はののしられても、ののしりかえさず「正しい裁きをする方にゆだねられた」からである。わたしたちの驕い主は侮られ、嘲笑されたが我慢強い、沈黙で対応された。裁判の場で主が屈辱や苦難をうけることに大喜びした残虐な群衆の残忍なあざけりも、恨みの言葉や我慢できない素振りを主から引き出すことはできなかった。主は天の君主であられ、その純潔な胸には復讐の精神はなく、あわれみと愛だけがあつた。(レ・ユー・アンド・ペルド 1891年2月24日)

多くの人は霊的なことを見分けられず、自分の魂にわなを仕掛けるサタンの働きに気づかないので、彼らの目にはかすみがかかっているように見える。クリスチヤンは感情の奴隷であってはならない。感情は神の御霊に支配されているべきである。しかし、多くの人は敵にもてあそばれている。なぜなら誘惑が来たとき、イエスにより頼まないで、主のみ腕の外で自分だけで心配しているからである。…わたしたちは、小さな日々の困難において失敗し、それらによっていらだったり、怒ったりしてしまう。それらに屈して、自分自身にも、他人にもつまずきの石となる。しかし、最も重要な祝福は、このような日々の悩みに忍耐強く耐えることによって得られるのである。なぜなら、わたしたちはより大きな困難に耐える力を得るからである。…

わたしたちの言葉と行動を抑えるとよいのだが、…短気な言葉によって家庭が害されている。短気な言葉は他人に同じ精神と態度で報復するようにしむけるので応酬の言葉や自分を正当化する言葉が出てくる時、そのような言葉によって重く、耐えがたいくびきがあなたの首にかせられる。なぜなら、これらの苦い言葉はすべてあなたの魂に有害な収穫となつてかえってくるからである。…心に恵みの油を持ち、すべての挑発をやり過ごすことができ、キリストのような柔和と寛容ですべてに耐える方がどんなに良いことであろう。(同上 5月19日)

5月14日

誇りのまざらない人格の尊さ

「わたしのくちびるは不義を言わない、わたしの舌は偽りを語らない。…わたしは堅くわが義を保って捨てない。わたしは今まで一日も心に責められた事がない。」
(ヨブ 27:4 - 6)

わたしたちは思いと、言葉、そして態度にこの上なく厳格な純潔を保つべきである。神は隠れた罪をも、み顔の光の前に置かれていることを覚えていよう。最も善良な人々ですら悩ますサタンによって引き起こされ、暗示を与えられる思いや感情はある。しかし、人がそれを温存せず、また嫌なものとしてしりぞけるなら魂は罪で汚されることもなく、だれもその影響で汚されることもない。ああ、わたしたち、一人一人が周囲の人々に対して命の香りになるようにと願う！

神の聖なる真理をより深く理解する必要がある。もしすべての者が使命の厳格さと重さに気付いたならば、今日不注意に犯されている多くの罪がわたしたちの間でなくなるであろう。あまりにもしばしば世間的な思いと交わりが真理の清い事柄と混同されてはいないだろうか。このようなことが行われるところではどこでも標準は低くなる。あなたの手本は他の人に真理を軽く考えさせる。そして、これは神の御目に最大の罪の一つとされる。

神が受け入れ、祝福してくださる生活をするということは、だれにとっても特権である。あなたは時々刻々、天と絶えず交わることができる。あなたが罪の宣告と暗黒の中にいつまでもいることは天の父のみ心ではない。あなたの品位を下げることは神の喜ばれることではない。あなた自身の良心によっても、また人と天使の前でも是認されるように生きることによって自尊心を養うべきである。

頭を垂れていながら、心の中が自分の思いで満たされているなら、真の謙遜の証拠にはならない。イエスの所へ行き、清めていただき、律法の前に恥も良心のかしゃくもなく立てるのは、あなたの特権である。「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者すなわち肉によらず霊によって歩く者は罪に定められることがない」(ローマ 8:1)。

わたしたちは思うべき限度を越えて思いあがるべきではないが、神のみ言葉は正しい自尊心を咎めはしない。神の息子、娘として、誇りや尊大さのない品性の品位を保つべきである。(ビュー・アソド・ハルド 1888 年 3 月 27 日)

落ち着きを伴った快活

「聞け、わたしは高貴な事を語り、わがくちびるは正しい事を語り出す。」(箴言 8:6)

聖霊が終日わたしの思いを支配されることを願う。神のみ言葉にある宝を見、貴重な真理を単純な言葉で表すことができるように、判断をする知恵や明晰な頭脳、また理解力が与えられるようにわたしは願う。世がこれまでに知った最も偉大な教師はそうになされた。

主がまもなく力と栄光を伴い、天の雲に乗って現れるという偉大な主題について、わたしはますます印象づけられていると感じる。この信仰は大いにわたしをいつでもどこでも厳粛であるようにさせる。しかし、わたし自分にも他の人にも謹厳であるように命じるが、人は悲しそうであったり、陰気であったりすべきではない。

わたしたちは陰気であるのではなく、快活で幸福でなければならない。愚かであるのではなく、信仰と調和したまじめさがあるべきである。言葉と行動が品性を形作る。それゆえ、わたしたちの言葉は清く、純粹で単純でしかも高められているべきである。話すという賜物は、貴重なタレントである。主は不道徳やお祭り騒ぎを強く味わう低俗な安っぽい、また品位を下げるようなくだらない言葉を聞くことをお喜びにはならない。クリスチャンはだれでも周りの者からこのような習慣を真似たり受けたりして、自分を卑しめるべきではない。…このような悪い愚かな言葉は不協和音であって、だれをも幸福にはしない。それらは靈性を損なうものである。神のみ言葉はそれらを禁じている。

「善人はよい倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。あなたがたに言うが、審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう。あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである」(マタイ 12:35 - 37)。

「イエスは彼らの考えを見抜いて、『なぜ、あなたがたは心の中で悪いことを考えているのか』』と言われた(マタイ 9:4)。イエスは心と考え、思想を読まれる。…良いことも悪いことも、語られたすべての言葉、なされたすべての行為を調べている聖なる目撃者がそこにおられる。(原稿 174, 1897 年)

5月16日

言葉に尽くせない喜び

「あなたがたは、イエス・キリストを見たことはないが、彼を愛している。現在、見てはいないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。」(ペテロ第一 1:8)

主は「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのと同じである。わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである」(ヨハネ 15:10, 11)。主の中には確実に満足な喜びがある。もしイエスから流れ出る光があなたに届きそれを他の人に反映するなら、あなたは純潔で、向上させ、高貴にする喜びを持っていることを示す。どうしてキリストの宗教の本当の姿が、魅力的で力に富んでいることが、現わされないものであろうか。なぜ、わたしたちはキリストの優しさを世に現わさないのであろうか。なぜわたしたちは、光の中も闇の中も共に歩いてくださる方であり、それゆえ、その方により頼むことのできる生ける救い主を持っていることを示さないものであろうか。…

しかし、つまらない読み物や、刺激的な物語、また娯楽を追求する心はキリストに宿らない。そして、主の愛に満たされて喜ぶことができない。愚かな思いや、つまらない会話に楽しみを見出す心は、ギルボアの丘が露と雨に欠乏したようにキリストの愛に欠乏する。…わたしたちの心は絶えず、キリストを思う心で満たされ、利己主義と罪は追い出される必要がある。(ビュー・アソ・ヘラルド 1892 年 3月15日)

主を恐れることが喜びとなっている生活が、悲しみと陰気な生活にはならない。悲しい顔をしていたり、巡礼者風の生活をするのはキリストが宿っていないからである。…しかし、魂の中に宿られるキリストは喜びの泉である。主を受け入れるすべての者のための主のみ言葉の基本は「喜びにあふれること」である。

なぜわたしたちは充分に、すなわち何一つ欠けることなく充分に喜ばないのであろうか。イエスはわたしたちの救い主であり、主がわたしたちのために用意してくださった豊かな備えを自由にいただけるという保証をわたしたちは持っている。…主のご臨在の喜びを常に求めるのはわたしたちの特権である。わたしたちが快活で主のみ名に対する讃美に満たされていることを主は望まれる。主はわたしたちが表情に光を、心に喜びを持つことを望んでおられる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1909 年 8月11日)

神の保護の下に

「見よ、イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない。主はあなたを守る者、主はあなたの右の手をおおう陰である。昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。主はあなたを守って、すべての災を免れさせ、またあなたの命を守られる。」(詩篇 121:4－7)

1897年7月16日。わたしは今朝の3時に目が覚め、家族を主が注意深く見守ってくださることに対し、神への感謝と祈りでわたしの心は高められた。主がわたしたちすべてを今日も保護の下において下さり、御顔をわたしたちに向けて下さるようにわたしは祈る。主がわたしたちの家庭に共に住んでくださって、貧しい我が家を誉ある者として下さるようわたしはこの上なく熱心に祈る。家族の一人一人が、心と品性に、日々神の改心の力を持つことができるようになるであろう。

心の中にあるキリストの宗教は命の泉である。それは、渴いて、キリストに求める魂すべてに主がお与えになる生ける水である。事実上魂の宮から遠く離れて宗教生活をしている者が多くいるが、彼らの信仰はイエス・キリストの内にはない。…あらゆる心の衝動を支配し、思考すらイエス・キリストに対して服従させるために天来の客が魂の宮に住むように招くべきである。

1897年7月26日。わたしは祈りの中で主に求めた後、主の祝福に対し、わたしの天の父に心からの感謝をささげる。わたしは子供が困った時にこの世の父の所に行くようにわたしの天の父の所に行く、わたしは世の親が子供に関心を持つように、いやそれよりはるかに多く、神がわたしたちに関心を持っておられことを知っている。わたしは自分を主の子供として、主が素朴で、悔い改めた者の祈りを聞いてくださることを信じて、単純な信仰のうちに大きな賜物を求めながら小さなお願いをささげる。

主はわたしたちを愛しておられ、主はわたしたちの愛を求め、わたしが幸福であることを望んでおられる、とわたしは心の中で言いつづける。「直く歩む者に良いものを拒まれることはありません」「万軍の主よ、あなたに信頼する人は幸いです」(詩篇 84:11, 12)

わたしは主のみ約束をわたし自身のものとして、そして、主にあって喜び、永遠に主の聖なるみ名を讃美する。(原稿 174 年 1897 年)

5月18日

自然の声

「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。夕となり、また朝となった。」(創世記 1:31)

神はわたしたちが主の創造された事物に楽しみを持たないようにには計画なさない。…神はご自分の子らが周りにある美しいものを楽しむのを父としての喜びを持ってごらんになる。地上におられたとき、世の救い主はすべての人が理解できるようにみ教えの教訓を明白で単純なものにしようとされた。そして、主がご自分の聖所として戸外を選ばれ、ご自分の創造のみわざに囲まれるのを望まれたことに、驚くことができようか。…ご自分の御手が造られたものを、主は教科書にされた。主はその中に有限な頭脳が理解できる以上のものをご覧になった。

何の心配もなく歌っている鳥、美しく輝いている谷間の花、湖の水面に純潔な姿で浮いているスイレン、高い木々、耕された土地、波うつ穂、不毛の土地、実を結ばない木、果てしない丘、泡立つ流れ、天を彩る日没—これらのすべてを使って、主の聴衆に天の真理を印象づけようとされた。主は天で神のみ手の業にかかわられ、地上で命のみ言葉になられた。これらから、主は霊的教訓の教えを引き出された。主はユリを、また谷の花を摘まれ、主のみ言葉の真理を伝える教師として、それを小さな子供たちの手に置かれた。…

自然の美は絶えずわたしたちに語りかける舌を持っている。開かれた心は主の御手の業の中に見られる神の愛と栄光に印象づけられる。聞こうとする耳は自然の事物を通して、神の伝言を聞き、理解する。神がわたしたちの目に見えるように与えて下さった日の光の中に、また自然の様々な物の中に教訓がある。緑の野原や高い木々、つばみや花、過ぎゆく雲、また降る雨、泡立つ流れ、太陽、月、天の星—これらすべてがわたしたちの注意をひき、瞑想を勧め、わたしたちに、それらすべてを造られた方を知るように招く。(ユース・インストラクター 1898 年 3 月 24 日)

あらゆる場所にある神の愛のしるし

「天を創造された主、すなわち神であってまた地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない』。」(イザヤ 45:18)

神の慈悲によって、わたしたちは数えきれないほど多くの祝福に囲まれている。至るところに主の愛のしるしがある。自然はわたしたちの前で喜んでいるように見える。天と地の美しい事物は世界の住民に万軍の主の愛と恩恵を表している。日光と雨は悪人にも善人にも降り注ぐ。丘と海と平野はすべての人の魂に創造主の愛を雄弁に語っている。つばみを花にし、花を実にさせるのは神であり、そして、わたしたちに日常の必要のものを下さるのは神である。一羽のすずめも天父の知らないうちに地に落ちることはない。あらゆる良い物、また完全な賜物の与え主に対し、感謝と崇拝がわたしたちの心から沸き起こるべきである。

わたしたちは子供たちに神のみわざを考えるように教えるべきである。彼らは、自分たちの救いのために神がなされた備えと神の愛について教えられるべきである。彼らの若い心を、彼らのために死なれた主に、感謝の献げ物、愛の香りとして与えるように導きなさい。心を引き付ける地上の美しいものを示し、罪と死による悪影響のない世界が来ること、そこでは自然界にもう呪いの影がささないことを子供たちに教えなさい。若い心が神の子供たちを待つ栄光の報いについてよく考えるように導きなさい。彼らの想像力がすばらしい新地と神の都の壮麗さを描くように啓発しなさい。そして、彼らがその光景に魅せられる時、それが彼らの最高の想像も描くことができないほど栄光に満ちていることを教えなさい。…

詩人と博物学者は自然について語るべき多くのことを持っている。しかし、最高の評価を持って地の美しさを楽しむのはクリスチャンである。なぜなら、彼は天父の手のわざを知り、花や灌木や木に主の愛を認めるからである。人間に対する神の愛の現れとして、丘や谷や川や海を見ない者はだれもその意味を十分に認めることはできない。(ビュー・アンド・ヘラルド 1888年2月14日)

5月20日

神の偉大さの証拠

「主よ、あなたはみわざをもってわたしを楽しませられました。わたしはあなたのみ手のわざを喜び歌います。主よ、あなたのみわざはいかに大いなることでしょう。あなたのもろもろの思いは、いとも深く、」（詩篇 92:4, 5）

わたしたちが通った風景はどれも、あるがままにその光景を描くのは、あまりにも気高く、あまりにも壮大なものであった。岩々の胸壁—洪水以来、山間の急流に洗われながら立っている、古い岩の壁—はあたかも磨かれたように滑らかに立っている。一方、これとは別な形の岩は、あたかも巧みな技でかたどったかのように通常の地層の中に現れている。ここで…わたしたちの目がこれまでに見た中で最も興味のある、素晴らしい光景を見た。岩が地面から高く、なお高く上がっており、これらの岩から美しい黒っぽい松が何本も生えていて、楓やブナの明るいこの上なく美しい生き生きとした緑とまじりあっていた。…このような野生の雄大さ、またこのような厳粛な風景は人を、水が地の最高点にまで上がった時の時代に引き戻す。不信仰なノアの洪水前の人々は彼らの大きな悪のゆえに洪水の水の中に滅んでしまった。…

わたしたちがありとあらゆる形の岩を…見上げる時「主よ、あなたの御業はこの地でいかに素晴らしいことでしょう」とわたしたちは言う。偉大なる芸術家によって濃い緑色や鮮明な緑の装いをした美しい配列で描かれた柔らかい、抑えた筆致、ごつごつした、時を経た岩をおおうこの美しい色の配色。それからまた、深い峡谷、音を立てて勢いよく流れる小川、そして、美しい夏の衣を着た森の木々に覆われている雄大な山々。

そのながめは極めて雄大であり、わたしたちの造り主であられる神の気高い、聖なる、強いそして神聖な思想を表している。そしてその時わたしたちはこのお方を父と呼んでもよいのだと言う思いが起こった。…もし、だれでもこの風景から神の偉大さと素晴らしさに感動しないならば、その心は全く感動を受けない心に違いない。わたしは神とのより緊密なつながりを切望する。威厳と力を持っておられるこの神がわたしたちの父であり、友であり、望みであり、喜びの冠であられるのである。（原稿 56, 1886 年）

備えの日に

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」(出エジプト 20:8)

1846年2月21日、金曜。今日は備えの日である。わたしたちは目的にかなった状態で終え、安息日に持ち込まないようにして安息日を迎えたいものである。わたしたちは一週間の間衣服を整えることを怠っていたなら、この日は朝から着物のあらゆる部分を点検しはじめなければならない。神の民が主を礼拝するために集まる場所にふさわしく、わたしたちの衣服は、さっぱりとしてきちんとした、見て気持ちの良いものであるように。…もしできることなら、新しい仕事をはじめるのは避けるべきである。しかし、すでに半分とりかかっている仕事は早く終わらせるよう努めなさい。憂いなく心安らかに天のことを冥想する用意ができるように、家事に関することはすべて準備しなさい。

過ぎ去ったこの週をよくふりかえってみる必要がある。あなたは生けるぶどうの枝として、神の栄光のために豊かに実を結ぶため、親であるぶどうの木から滋養分を吸い取ってきたかを反省しなさい。熱にうかされていたような興奮があったなら、短気な言葉を口にしたなら、また激しい感情をあらわしたなら、これらは確かに、サタンの側からの働きかけである。悔い改めによって心を清めなさい。安息日に入る前に、真剣にすべてのことを正しくしなさい。あなたが信仰の内にいるかどうか、自分自身を調べなさい。わたしたちは、貴重な実を实らせることなく外観だけは枝を広げ葉を茂らせたイチジクの木のように、ただ口先だけの信仰を告白しないように、常に自分の心を守る必要がある。キリストは実を見、そしてつみ取りたいと渴望しておられる。実をもたらない告白はキリストにとってちょうど、彼が呪われたイチジクの木のように無価値なものである。…

神への謙虚なより頼み、み言葉によって主を受け入れ、いついかなる時にも主に信頼する信仰は、キリストのくびきを担うことである。クリスチャンは、自分がすべての欲望を神の支配のもとに置く。その時、思いがイエス・キリストのとりこになっているならば、品性の美と恵によって品性の健康的な成長が見られる。(原稿 62、1896 年)

5月22日

自然を通して自然の神に

「しかし、聖書に書いてあるとおり、『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである。」(コリント第一 2:9)

もしわたしたちの心が神の愛によって穏やかにされ、和らげられたならば、神の国でわたしたちが目にするあらゆる灌木や咲きみだれるたくさんの花々の中にわたしたちに述べられた神のあわれみと愛に満ちた親切を認めるように心は開かれるであろう。繊細な葉や草の細い若芽、またすべてのそびえたつ樹木などは、神のその子らに対する愛の表現である。それらのものは、神が美しいものを愛される方であるとわたしたちに語りかけている。神は、品性の美の完全さをお喜びになることを自然の書物から、わたしたちにお語りになる。彼はわたしたちに自然を通して自然の神を見上げさせ、わたしたちがその創造のみわざを見る時、心が愛と敬愛のうちに主に近づけられるようにされた。…

自然の光景が神の子らに感化を与え、天父がわたしたちのこの世の家を飾られた清く単純で静かな美しさを喜ぶようにと神は計画された。イエスはわたしたちに、かつてこの世を統治した最も権力のあった王の豪華な衣装も、神が愛を持って装われた単純な花には比べるできないとお語りになった。…

わたしたちは、神の都の真珠の門を通して至福の天国へと行くために、品性の白い衣を用意しなければならない。黙示録は、生ける水の泉、神と小羊とのみ座から出て、水晶のように輝いている命の水の川、その川の両側に青々と育つ命の木などの光景を見せてくれる。…

わたしたちは自然のすばらしい光景を見るが、それは神のパラダイスにおいて見ることのできる本来のものの単なる影である。神がわたしたちのために計画された尊い教訓を学ぼうではないか。単純な花々を季節に応じて美しくお咲かせになる神が、どうしてご自分の姿にお造りなつたあなたがたをもっと顧みられないことがあろうか。これらの美しいものを見なさい。神は一日でしばむこれらのものに愛の衣装を備え装わせられるのである。この世のこれらすべての一時的な美は、永遠のまだ見たこともない栄光と宝についてわたしたちに語りかける神のみ声として理解すべきである。(原稿 20, 1886 年)

家庭で神をたたえる

「キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。」(コロサイ 3:16)

これはわたしたちの家庭に必要なことである。家庭にはあら探しや、厳しさがあるのではなく、ただ主にある平和と喜びまた休息がある。…神は愛の奉仕をお求めになる。神は両親がその子供たちにやさしく、愛に満ちた言葉をかけるよう求めておられる。子供たちに、あなたがたが助けを期待していることを教えなさい。彼らに負うべき責任、最初は小さい責任を成長してからは大きな責任を与えなさい。「助けてくれるよりも邪魔のほうが多い」などとあなたがたが言うのを決して彼らに聞かせてはならない。…

家庭は子供たちをキリストかサタンのどちらかのために訓練する学校であることを忘れて人がいかに多いことであろうか。父と母は、あなたの子供たちに聞かえるように話すあなたがたのすべての言葉が、彼らに影響を与え、善と悪のどちらかに影響を与えていることを覚えておきなさい。もしあなたがたが互いのあやまちをとがめだてするならば、あなたは子供たちにあら探しをする教育をしていることを忘れないようにしなさい。

あなたの周りに子供を集め、天父の前に膝をかがめなさい。神があなたにお与えになった責任を果たすための助けを神に求めなさい。あなたの嘆願は短く、また熱心にしなさい。次のように祈りなさい。「天の父よ、わたしの子供たちが救われますようお願いいたします。わたしが子供たちをよく教えさすことによって彼らが、永遠の命を受ける価値がある者として教えられますよう、あなたの御霊の助けをお与えください」と。子供たちが自分の単純な祈りの言葉で祈ることができるように教えなさい。神は彼らの祈りを喜んでお聞きになることをお話しなさい。

わたしたちは自分自身を穏やかにした時にのみ、子供たちを穏やかにすることができ。しかし家庭生活に自分たちの先天的、また後天的な悪への傾向を持ち込んでいく両親がいかに多いことであろうか。彼らは子供っぽさを卒業していない。子供たちが以前に注意を受けたことのない事柄で彼らは子供たちを叱る。両親方よ、あなたの子供たちを叱ってはならない。しっかりと、しかしやさしく彼らを取り扱いなさい。いつも忙しくさせなさい。彼らが家族の一員であり彼らも母親や父親を助けることができることを感じさせなさい。彼らがあなたがたのためにしたことに感謝しなさい。

あなたの家庭を、神が愛され、たたえられる場所にしなさい。(原稿 39, 1901 年)

5月24日

神の仕事場で

「この主のみもとにきて、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によるこぼれる霊のいけにえを、ささげなさい。」(ペテロ第一 2:5)

神のみ言葉は世から神の子らを離れさせる強力な刃物の役目をしている。彼らがこの世という石切り場から出される時には、荒削りの石のように神の栄光の宮にすえるには適していない。しかし、彼らは削られ、四角くされ、磨かれるために、主の仕事場に運び込まれる。彼らが貴重な、役に立つ石となるためである。天の宮のためのこの準備の働きは恩恵期間の間継続される。わたしたちは本質的に自分の道を進み自分の意志を通そうとする傾向があるが、キリストの恵みがわたしたちの心を変えるとき、「主よ、あなたはわたしに何をさせようとなさるのですか」と質問するようになる。神の御霊がわたしたちのうちに働く時、わたしたちは主のお喜びになることをなし、考えるように導かれ、思いと行為に服従が見られる。…

クリスチャンは、魂の大いなる敵に対して決して奴隷の辱めを受けない神の貴族となるべきであり、神に自分自身を結びつけるべきである。それは、彼らが愛し、崇高で、あがめられている主から靈感を得るためである。神を愛する魂は疑いの雲を超越し、輝かしい、広い、深い、生ける経験を得、柔和なキリストに似た者になる。彼の魂は神にゆだねられ、キリストと共に神の内に隠される。彼は救い主がすべてのことにおいて苦しまれたゆえに、怠慢や、ののしり、軽蔑などの試みにも立つことができる。彼は困難に当面しても、イエスが失敗したり失望されなかったゆえに苛立ったり、失望したりしない。すべての真のクリスチャンは、彼の良い働きの強さや功績においてではなく、キリストの義のうちに強くなる。そのキリストの義は信仰を通して彼に着せられるのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1889年12月3日)

わたしたちが主の霊的な宮に何らかの場所を占めるべきであり、重要な質問は、あなたが大きい石か小さい石かということではなく、主の栄光のためにあなたを磨き、光を放つようにさせる神に、あなた自身をゆだねているかどうかである。もしわたしたちが主の宮にいるのならば、わたしたちは光を放たねばならない。わたしたちは天の建築家に削ったり、磨いたりしていただくために、自分をゆだねているだろうか。主のうちに憩う信仰をいただいているだろうか。(同上 1891年5月19日)

神の靈的な宮

「このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、そしてあなたがたも、主において共に建てられて、靈なる神のすまいとなるのである。」(エペソ 2;21,22)

福音はすべての人のために計画されており、教育も、性格も、立場も異なる男女を教会に集める。それらの人々の中には生来が怠慢な人、秩序は誇りであると感じ、またそれほど特別な民になる必要はないと感じる人もいる。神が彼らの低い標準に下りてこられることはない。…

神の民は高く聖なる召しを受けている。彼らはキリストの代理人である。パウロは、コリントにある教会へ「キリスト・イエスにあって、清められ、聖徒として召された」(コリント第一 1:2) と呼び掛けている。…

もしわたしたちがクリスチャンの宗教を正しく代表しない言葉や行状の習慣を持っているなら、ただちに改革の働きに取りかかるべきである。わたしたちがこの世に対してキリストを代表する時に、主に榮譽を帰すような習慣を持つ。至る所で目に見えない力がキリストから人々を引き離そうと働いているが、神はなお一層力強く、ご自分の民の間で魂をキリストに引きつけるために働く代理人を持っておられる。(ビュー・アンド・ヘアル 1884 年 5 月 6 日)

ユダヤの神殿は山から切り出された石で建てられ、すべての石は、エルサレムへ持ち込む前に、はかられ、削られ、磨かれ神殿のそれぞれの場所にぴったりに合わされた。そしてすべてのものが運び込まれた時に建築は、おのや槌の音をたてないで進められた。この建物は、あらゆる国、国語、民族、すべての階級、身分の高低、貧富、教育の有無を問わず集められた材料によって構成される神の靈の宮をあらわしている。それはハンマーやのみで形をつくられる死んだ材料ではない。彼らは真理によってこの世から切り出された生ける石であり、そして偉大なる建築家であり、また、その宮の主であられる方が靈の宮の中の尊い場所にふさわしいように、現在削ったり、磨いたりしておられるのである。完成したとき、この神殿はその各部分が完全になる。そして天使と人々の称賛は、それを建築し、造られた神にささげられる。まことにこの栄光の建物を構成する人々は「聖徒として召された」のである。(同上 1884 年 5 月 6 日)

5月26日

キリストの兵士

「真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、」(コリント第二 6:7)

キリストの教会は軍隊と比較される。すべての兵士の生涯は、労苦と困難と、危険な生涯である。どの方面にも闇の力の君に導かれた油断のない敵がいる。この暗黒の君はまどろむことも自分の持ち場を離れることもない。クリスチャンが自分の保護者から離れるときはいつでも、この強力な敵は、時を移さず激しく攻撃して来る。教会員が活動的で注意深くなかったならば、彼らはサタンの策略によって打ち負かされる。

もし軍隊の兵士の半数が任務についている時、怠けたり眠ったりしていたらどうなるだろうか。結果は敗北、捕虜、あるいは死である。いや、彼らは直ちに死刑の宣告を受けるだけである。キリストの教会が不注意で不信仰であるなら、もっと重要な結果を招く。クリスチャンの兵士の眠れる部隊は、何と危険であることだろう。…

主は福音のために働き人を召しておられる。だれがそれに応じるだろうか。軍隊に入るすべての者が、將軍や隊長、また軍曹、もしくは伍長になるのではない。すべての者が指揮者の責任を負わされるのではない。そこにはしなければならない他の種類の厳しい仕事がある。ある者は塹壕を掘ったり、要塞を築いたりしなければならないし、ある者は歩哨に立ち、また伝令となって走らなければならない。士官はほんの少ししかないが、軍隊には多くの下士官や兵卒が必要であり、しかも勝利はすべての兵士の忠実にかかっているのである。…

もしわたしたちが信仰の良き戦いを戦おうとするならば、わたしたち各自によってなされるべき重大な仕事がある。永遠への興味は危険に瀕している。わたしたちは全身に義の鎧をつけなければならない。悪魔に抵抗しなければならない。そうすればわたしたちには彼が敗走するという確かな約束がある。教会は、活動的な戦いをし、キリストのために勝利し、敵の力から魂を救い出すべきである。神と聖天使たちはこの戦いに従事される。わたしたちに兵士になるようお召しになる主をわたしたちは、喜ばせようではないか。(教会への証 5 巻 394,395)

弟子の身分である証拠

「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ 13:35)

愛の欠乏ほど教会の感化を弱める者はない。…世の人々は、わたしたちの信仰がわたしたちの品性や生活にどのように現れているかを見ようとして、わたしたちを見つめている。彼らはわたしたちの心に清めの効果があるか、またキリストに似た者に変えられているかどうかを見守っている。彼らはわたしたちの生活のすべての欠点、わたしたちの行為の中のすべての矛盾を発見しようと待ち構えている。彼らにわたしたちの信仰を非難する好機を与えないようにしよう。

わたしたちを最も危険にさらすのは、世の反対ではない。わたしたちに最も重大な災害をもたらすのはわたしたちの心の中で悪を愛することによってである。真理の働きを妨げ、神の教会に暗黒をもたらすのは、二心の信仰告白者が送る献身していない生活である。

互いに、妬んだり、疑ったり、またあら探しや、悪い憶測をすることほど、霊的な事柄でわたしたちを弱めることはない。…

あなたがたは互いに交わる時に、言葉に注意しなさい。…もし真理への愛があなたの心にあるなら、あなたは真理を語るであろう。あなたはイエスにあっていだいている祝福された望みについて語るであろう。もしあなたが心の中に愛があるなら、最も聖なる信仰にあなたの兄弟を堅く立たせ、育てようと願うであろう。もし、あなたの友人や兄弟の品性に有害な言葉をだれかが漏らしたなら、その悪い会話を助長してはならない。それは敵の仕業なのである。神のみ言葉はこの種の会話を禁じていることを話し手に優しく思い出させなさい。わたしたちは魂の宮を汚すすべてのものを心に入れないようにすべきである。キリストがその中にお住みになられるからである。わたしたちの救い主は、わたしたちが世に対して主をどのように表すことができるかを、わたしたちにお語りになった。もしわたしたちが主の霊を心に抱くなら、もしわたしたちが他の人々に主の愛を表すなら、もし、お互いの関心を守るなら、もし親切で忍耐強く寛容であるならば、この世はわたしたちが神の子として結ぶ実によって、証拠を得るのである。不信者や世俗的な人々に意識的な感化を発揮できるようにするのは、教会の中における一致である。(レヴィ・アンド・ハルト 1888 年 6 月 5 日)

5月28日

光の輝くところに来なさい

「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヘブル 10:25)

未信者の社会に住む家族にとって神の律法を守り、イエスを代表する者として立つことは、小さな事柄ではない。わたしたちはすべての人に知られ、そして読まれる生ける手紙になるように求められている。この立場には大変な責任が含まれている。光の内に生活するために、わたしたちは光の輝くところに来なければならない。神の民にとって、彼らと信仰を共にする人々との交わりの特権を失うことは良いことではない。彼らの心の中から真理が重要なものであるという考え方が失われていくからである。…彼らは生ける説教者の言葉によって強められることがなく…

多くのクリスチャンの信仰は、もし彼らがいつも集まりや祈祷会を怠っているなら不安定になってくる。もしこのような宗教的特権を喜ぶことが不可能な時には、神はその散らされた民を励まし、元気づけ、祝福するために天使をつかわして、天より直接光をお送りになる。しかし主は、その子らの信仰を支えるために、奇跡の働きをなさることはない。彼らは神によって支えられた祝福と特権を確実に受けることができるように真理を充分愛するように求められる。…

「そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書が生じられた。『万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ』」(マラキ 3:16, 17)。

わたしたちの及ぶ範囲の特権を用いるために、また神を恐れ、神のために語る人々と共に集まるために犠牲を払うことには、十分な報いが与えられるであろう。なぜなら、彼らの証を注意深く聞く方として主が現わされており、天使はその証を本に記録するのである。神は、共に集いご自分の名を思ふ人々を記憶なさるのである。…主の怒りが罪人の頭に遮るものなく下される時に、彼らは主の御目には貴重な宝石になるのである。(レビュー・アソド・ヘラルド 1882年11月14日)

力に満ちた生活

「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならぬ。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。」(ヨハネ 9:4)

クリスチャン生活は、単に柔和、忍耐、謙遜、親切などを実行することから成り立っているのではない。人はこれらの尊くまた、温順な特質を得ることができかもしれないが、働きが困難になると弱々しく活気のないこのような人は積極性や活動力、しっかりした強い品性が欠けている。そしてこれらの特徴こそは、悪に抵抗し、神のために働く力を与える。

イエスはすべてのことにおいてわたしたちの模範であった。彼は熱心なたゆまない働き人であった。主は子供時代から有用な生活をお始めになった。12歳の時には、「父の務め」についておられた。12歳から30歳の間の公生涯にお入りになる前には大工の生活をされた。イエスは奉仕の時には怠けられることは決してなかった。主は「わたしをつかわされた方のわざを…しなければならぬ」と言われた。苦しむ人が主の御許に来て救われないまま返されることはなかった。主は一人一人の心をよくご存じであり、その必要にどのように奉仕するべきかを知っておられた。人々を慰め、励まし、祝福する愛の言葉が主の唇から出て、天の王国の大いなる原則は、すべての者が理解できる単純なことで語られた。

イエスは静かな、そして他人思いの働き人であった。主はご自身の安楽も楽しみもお考えにならず、また名声や、富、称賛もお求めにならなかった。…主に従う者であると告白する多くの者がするように、主は、世話や責任を回避したりはなさらなかった。…

わたしたちの奉仕についてのキリストのご要求は、毎日新たにされる。改心の時にわたしたちの献身が完全であったとしても、日ごとにそれが新たにされていなければ、わたしたちにとって何の役にも立たないであろう。しかし、現在喜んでなす献身は新鮮であり、本当のものであり、神に受け入れられるものである。わたしたちは主の足元に置く月日を、何か月も持っているわけではない。明日はまだ受けていないので、わたしたちのものではない。しかし今日わたしたちはイエスのために働くことができる。今日わたしたちの計画と目的を、検査と承認を受けるために主の前に置くことができる。…この日は神の日であり、あなたは主に雇われた僕である。(レビュー・アンド・ヘルド 1885年1月6日)

5月30日

キリストを見習うこと

「そこで、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たちよ。あなたがたは、わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思いみるべきである。彼は、モーセが神の家の全体に対して忠実であったように、自分を立てたかたに対して忠実であられた。」(ヘブル 3:1, 2)

この世の贖い主イエスは、人々に彼らが何を成し、どのようになるべきかの模範を示すにあたって、安易な旅路をお示しにならなかった。…イエスは天の指揮官であられたが、地においては奉仕するものであられた。主は不平を言わずに窮乏に耐えられ、貧乏人の生活をお過ごしになった。主は主に従う者であると言っている多くの者の周りを取り巻いている贅沢にふけったりはなさらなかった。主は快樂とか、安易なこと、都合の良いことなどはすべてお学びにならなかった。主は悲しみの人であり、嘆きを知っておられた。その全生涯は、「わたしの思いのままにではなく、み心のままになさってください」と祈りに表されたように、自己否定の一生であった。

キリストはわたしたちの模範であり、キリストに従う人々は、彼ら自身の快樂を求めないので、暗黒の中を歩くことはない。神に栄光を帰すことが彼らの生涯の継続的な目的となる。キリストはこの世に神のご品性をおあらわしになった。主イエスは、すべてのことを申し分なく成し遂げられたことを人々が認めざるを得ないような一生をお送りになった。この世の贖い主は、そのご品性に何の汚点もなかったので、この世の光であられた。主は神のひとり子であられ、天と地とすべてのものの相続人であられたが、怠惰や放縱の模範はお残しにならなかった。…

キリストはだれに対しても決してへつらわれなかった。主は決して惑わしたり、欺いたりされなかった。また指示や称賛を得るために潔白な、まっすぐなその方針をお変えにならなかった。彼は常に真理をお表しになった。主の唇には親切の律法があり、そのみ口には偽りがなかった。人に自分の生活とキリストのご生活を比較させ、そして主を自分の個人的救い主とする者にイエスが与えて下さる恵みを通して、義の標準に到達することができるようにさせよう。「わたしは、わたしの父の戒めを守った」と仰せになり、エホバの律法に従って生活された主の模範にならおうではないか(ヨハネ 15:10)。キリストに従う者は自分の完全な律法を常に研究し、キリストによって与えられる恵みを通して、その品性は聖なる要求通りに形成されていくであろう。(ユース・インストラクター 1894 年 10 月 18 日)

恵みの教育者

「わたしは、あなたがたがキリスト・イエスにあって与えられた神の恵みを思って、いつも神に感謝している。…もまた、あなたがたを最後まで堅くささえて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、責められるところのない者にして下さるであらう。」(コリント第一 1:4, 8)

この世においてわたしたちにはなすべき義務があり、この義務を実行することによって、わたしたちは審判のテストに耐えることができるか、あるいは秤で量られてその足りないことが見出されるかのいずれかとなる品性を形成しているのである。わたしたちはもつとも小さな義務をあたかも全天の天使たちが見守っているかのように、気高い勇気をもって、確実に忠実になすことができる。庭師から教訓を学びなさい。もし庭師が植木の育つことを望むならば、よく耕し、枝を刈り込む。水を与え、根の周りを掘り、日の良く当たるところに植えかえる。そして日々その仕事を続け、極端にするのではなく常に継続的にくりかえして、植木が完全な形になり、花が満開になるまでやめないのである。

わたしたちの主イエス・キリストの恵みは、心や魂に教育者として働きかける。魂への主の御霊の継続的な感化は聖なる形に従って品性を訓練し、ねりあげ、形づくる。青年たちの心に行為の繰り返しを習慣を形づくり、習慣が品性を形づくることを銘記させよう。…キリストの愛は、あなたの魂の生ける活動的な要素であり、あなたの過ちを正し、改革し、精練させるものではないだろうか。そしてあなたの悪い行為からあなたを清めるものではないだろうか。イエスがその苦しみと死を通してあなたの手の届くところまでもたらして下さったすべての恵みを求める必要がある。あなたは人生の大きな問題と同様に小さなことのうちに、あなたのために備えられている豊かな恵みを明らかにすべきである。…偉大な真理は小さな事柄のうちに入れることができる。宗教は人生の大きな問題の中に盛れると同様に小さな事柄にも盛ることができるのである。

神の戒めは非常に広く、主はご自分の子らが無秩序であったり、彼らの欠点によって生活が台無しになるのを喜びにならない。先祖代々大切にしてきたものをあくまでも押し通し、他の人々がまねをし、末代までも続くような悪い習慣による欠陥を養ったために彼らの宗教経験はかたわになり、恵みのうちにある成長が妨げられている。もしキリストの恵みがこれらの欠陥を癒すことができないならば品性の改変はどうなるであろうか。(ユース・インストラクター 1893 年 9 月 7 日)

研究 13

神の憐れみの最後の招き



「永遠の福音の位置」

三段階のメッセージー 結合すべき

「わたしは、第一、第二、第三の天使による三段階のメッセージを示された。わたしにつきそっていた天使は言った。『このメッセージをすこしでも変える者はわざわいだ。このメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、このメッセージをどう受け入れるかにかかっている。』」（初代文集 420）

契約で人のなす分は、受け入れることと信じることです。受け入れるためには、本当に理解する必要があります。魂の運命がかかっているこのメッセージは三つではなく、三段階のメッセージであり、結合していることを理解して受け入れることが「非常に大切だ」。

「神の日に立ち得る民を準備するには、改革の大いなる働きが成し遂げられねばならなかった。神は、神の民と称する人々の多くが、永遠のために築いていないのを見られ、あわれみのうちに彼らに警告のメッセージを与えて、彼らを昏睡から目ざめさせ、主の再臨の準備をさせようとした」（各時代の斗争闘上巻 400）。

この警告が、黙示録 14 章に記されています。

警告という言葉聞いて、獣の刻印を考える人が多くありますが、この警告は三重のメッセージです。

「ここには、天使が宣言するといわれている三重のメッセージが書かれていて、すぐそれに続いて人の子が来られ、『地の穀物』を刈られる。警告のメッセージの第一は、審判の切迫を宣言する。預言者は、天使が『中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った。「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏

し拝め』(黙示録 14:6,7)。

このメッセージは、『永遠の福音』の一部として宣言されている(各時代の大争闘上巻 400)。

この後に続くメッセージはどのように記されているでしょうか。

「また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者。』」(黙示録 14:8)。

「ほかの第三…」(黙示録 14:9)。

第二、第三と続いていることにより、その前のメッセージが第一であることが示唆されています。そして、この第一は永遠の福音の一部だと宣言されています。つまり、第二、第三とも永遠の福音の一部だということです。

そして、パウロは、福音には神の義が啓示されていると述べました(ローマ 1:17 参照)。つまり、真に福音を聞く者は、神の義を見いだすのです。

「この運動がいつ起こるものであるかについては、メッセージ自体が明らかにしている。それは、『永遠の福音』の一部であると宣言されている。そして、審判の開始を告知している。救いのメッセージは、各時代において宣べ伝えられてきた。しかし、このメッセージは、終末時代においてのみ宣布される福音の一部分である。というのは、その時において初めて、さばきの時が来たということが出来るからである。預言は、審判が始まるまでに相次いで起こる種々の事件を示している。特にダニエル書がそうである。しかし、ダニエルは、最後の時代に関する預言を、『終りの時まで』秘し、封じておくように命じられた。この時が来るまで、これらの預言の成就に基づいて審判に関するメッセージを宣布することはできなかった。しかし、終わりの時に、『多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう』と預言者は言っている(ダニエル 12:4)。」(各時代の大争闘下巻 50)

「御使は中空を飛んでいる天使としてあらわされている……だれもこれらの御使たちの声を聞くわけではない。なぜなら、それらは全宇宙と調和して働いている神の民を表す象徴だからである。」(ライフ・スケッチ 429)

「三天使のメッセージは結合され、その三重の光が世界に伝えられることになっている。黙示録でヨハネは述べている。『わたしはもうひとりの御使が、大いなる権威をもって、天から降りてくるのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた』[黙示録 18:2-5 引用]。これは世界に対して最終的な、かつ三重の警告のメッセージが与えられることを示している」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 985)。

「キリストの弟子によって宣布された福音のメッセージは、世界に対する主の

初臨の布告であった。それは主を信じる信仰による救いのよい知らせを人々にもたらした。それは主の民をあがなうために栄光の中に来られる主の再臨をさし示し、信仰と服従によって光の中にある聖徒の嗣業に共にあずかる望みを、人々の前に示したのである。このメッセージは今日人々に与えられている。今はそれに間近に迫っているキリストの再臨の布告が結びつけられている。キリストご自身が、再臨について語られたしるしは成就した。神のみことばによってわたしたちは、主が戸口におられることを知ることができる。

黙示録の中でヨハネは、キリストの再臨の直前に、福音が宣布されることを預言している。彼はひとりの天使が『中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。』（黙示録 14:6,7)。

この預言によると、さばきとそれに付随した警告のメッセージのあとに、天の雲にのって人の子が来られることがのべられている。さばきのメッセージの宣布は、キリストの再臨が近いことを知らせている。そしてこの宣布は永遠の福音と呼ばれている。このようにしてキリスト再臨のことを説教して、その切迫を告げることが福音使命の本質的部分であることが示されている」（キリストの実物教訓 207）。

これらのみ言葉が示していることは何でしょうか？それは、第三天使のメッセージが福音であるということです。主の再臨が近いことを告げる福音であり、キリストが愛しておられるすべての人々に伝えられなければならないメッセージなのです。

「今日も同じである。人々はあたかも神も、天国も、来世もないかのように、利益と自己中心的放縦な生活を追い求めている。ノアのときに、悪を行なっている人々の目をさまし、悔い改めをうながすために、洪水の警告が発せられた。同様にキリストの切迫した来臨のメッセージは、世俗のことに心を奪われているものの覚醒をうながすために計画された。それは彼らの目をさまして永遠の存在を意識させ、彼らが主の宴会への招待に心を留めるために与えられたのである。

福音の招待は全世界に一『あらゆる国民、部族、国語、民族』—与えられるべきである（黙示録 14:6）。

警告とあわれみの最後のメッセージは栄光をもって全地を照らすべきである。
.....

世界は、福音の欠乏のために滅びつつある。神のみことばのききんがくる。人間の言い伝えをまぜないでみことばを説教するものはほとんどいない。人々は聖書を手にしているけれども、神が彼らのために聖書の中に備えてくださった祝福

を受けていない。主は、人々にご自身のメッセージを伝えるためにしもべたちをお召しになった。罪の中に滅びつつあるものに、永遠の命のこぼれを伝えなければならぬ」(キリストの実物教訓 208, 209)。

段階的なメッセージ

「第一、第二、第三の天使による三段階のメッセージを示された。わたしにつきそっていた天使は言った。このメッセージをすこしでも変える者はわがわいだ。このメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、このメッセージをどう受け入れるかにかかっている」(初代文集 420)。

「第三の天使は、彼らを至聖所に導いた。そして、過去のメッセージの経験を経た人々も、彼らを天の聖所へと指さしていた。多くの人々は、天使たちのメッセージの中に、完全な真理の連鎖を見、喜んでその順序に従って受け入れて、信仰によってイエスに従い、天の聖所にはいったのである。わたしは、これらのメッセージが、神の民の錨であることを示された。それらを理解して信じた人々は、サタンの多くの欺瞞に押し流されないように守られるのである」(初代文集 417)。

第三天使は、そのメッセージを受け入れる人々を至聖所へ導きます。第一、第二天使のメッセージも第三と合わせた一つのメッセージとして、至聖所を指しています。そこにキリストがおられ、わたしたちのために働いて下さっているからです。これは、第三天使のメッセージを信じる再臨信徒を自称しながら、獣の一挙手一投足にすべての注意を向けている人々となんと対照的なことでしょう。

「第一天使は、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ』、神を天地の創造主として礼拝せよと、人々に呼びかけている。そうするためには、神の律法に従わなければならない。賢者は、『神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である』と言っている(伝道の書 12:13)。神の戒めに対する服従がないならば、どんな礼拝も神に喜ばれることはできない。『神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。』『耳をそむけて律法を聞かない者は、その祈でさえも憎まれる』(ヨハネ第一 5:3、箴言 28:9)」(各時代の争闘下巻 155)。

しかし、神に礼拝するよう第一天使のメッセージを宣布したその人も、その意味を十分に理解していなかったために、真の礼拝日である安息日を守っていませんでした。ちょうどバプテスマのヨハネの弟子たちが彼の働きを十分に理解せず、エリヤはすでに来たのかと聞いたのと同様です。

ですから、このメッセージを本当に理解することは「非常に大切」なのです。

「神のさばきの時がきた」という告知は、人類の救いのためのキリストの務めの最後の働きを指している。それは、救い主のとりなしが終わり、彼がご自分の民を迎えるために地上に帰られるまで宣布しなければならない真理を伝えるもの

である。1844年に始まった審判の働きは、生きている者も死んだ者も、すべての者の運命が決定されるまで継続しなければならない。したがって、これは、人類の恩恵期間の終わりまで続くのである。人々に審判に立つ準備をさせるために、メッセージは、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。」「天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」と彼らに命じている。これらのメッセージ（第一天使のメッセージ）を受け入れる結果は、「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」（第三天使のメッセージ）という言葉で表わされている。審判に対する備えをするためには、人は神の律法を守らなければならない。その律法が、審判の時の品性の規準となるのである」（各時代の大争闘下巻 154〔（ ）内注記付加〕）。

つまり、第一から始まり、第三でその結果を見ることのできるこの三重のメッセージは一つです。

「黙示録 14 章には、創造主を礼拝するようにという呼びかけが人々に対してなされている。そして、三重のメッセージの結果として、神の戒めを守る一団の人々が起こることを、預言は示している。これらの戒めの一つは、神が創造主であることを直接指示している。第四条は、次のように宣言している。『七日目はあなたの神、主の安息である。……主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた』（出エジプト記 20:10, 11）。安息日について、主は、さらに、それが『しるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである』と言われる（エゼキエル書 20:20）。そしてその理由は、『それは主が六日のあいだに天地を造り、七日目に休み、かつ、いこわれたからである』と言われているのである（出エジプト記 31:17）」（各時代の大争闘下巻 156）。

「第三天使は、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち続ける者とは対照的に、別の一団を指摘している。そして彼らの誤りに対して、厳粛で恐ろしい警告が発せられている。『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、……神の激しい怒りのぶどう酒を飲』む（黙示録 14:9, 10）。このメッセージを理解するには、ここに用いられている象徴を正しく解釈することが必要である。獣、像、刻印とは、いったい何を表わしているのであろうか」（各時代の大争闘下巻 157）。

わたしたちは、どちらに注目すべきでしょうか？

第三天使は至聖所を指さしています。そこには、契約の箱が見えます。

では、いつ見えたのでしょうか？

「第七の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、大きな声々が天に起って言った、『この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであらう』。…諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわ

されました。そして、死人をさばき(ダニエル7章:調査審判)、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました。そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた。また、いはずまと、もろもろの声と、雷鳴と、地震とが起り、大粒の雹が降った」(黙示録11:15-19〔()内注記付加)。

第七のラッパが鳴った審判の時に、契約の箱が見えたと黙示録記者は言いました。この時のことが、旧約ではイザヤ56章(56:8)に預言され、また新約ではイエスがヨハネ10章(10:16)で繰り返されました。この二つは、回復の完成を預言する連れ合い(イザヤ34:16)です。そして、これについて詳述しているのが、各時代の犬争闘下巻174から始まる26章「安息日の意義とその回復(原題は「回復の働き)」です。それでは、そこから見てみましょう。最初の段落にイザヤ56章が説明されています。

「この聖句が、キリスト教時代に於てはまることは、その前後関係から見て明らかである。『イスラエルの追いやられた者を集められる主なる神はこう言われる、「わたしはさらに人を集めて、すでに集められた者に加えよう」と』(同8節)。ここに、福音によって異邦人が集められることが予告されている。そして、そのとき安息日を尊ぶ者たちに、祝福が宣言されている。こうして、第四条を守る義務は、キリストの十字架と復活と昇天を越えて、彼のしもべたちが福音の使命をすべての国民に宣べ伝える時にまで及ぶのである。……

イエスの弟子たちは、第四条の安息日を、創造主の記念と彼の権威のしるしとしての正当な位置に高めることによって、それを回復するように求められている。

『ただ律法と証とを求むべし。』種々の矛盾した教義や意見が盛んに唱えられているが、神の律法は、あらゆる意見、教義、説などを吟味する誤つことのない唯一の規準である。『彼らのいうところ、この言葉にかなわずば、しのめあらじ』(同20節文語訳)」(各時代の犬争闘下巻174, 175)。

「これらの真理は、黙示録14章において『永遠の福音』と関連して示されているように、再臨の時のキリストの教会の特徴である。なぜなら、三重のメッセージが伝えられる結果として、『ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』とされているからである。そして、このメッセージは、主の再臨に先だって伝えられる最後のものである。これが宣布されたあと、直ちに、人の子が地の収穫を刈るために栄光のうちに来られるのを、預言者は見たのである。

聖所と神の律法の不変性についての光を受けた人々は、彼らが理解した真理の体系の美と調和を見て、喜びと驚きに満たされた。彼らは、非常に貴重なも

のに思われたその光を、すべてのキリスト者たちに伝えたいと願った」(各時代の
大争闘下巻 177)。

「安息日の基礎が置かれたのである……それは、日の老いたる者によって制
定され、その永遠の言葉によって命じられたものである」(各時代の争闘下巻
179)。

「むかしのイスラエルの歴史は、再臨信徒の団体の過去の経験の、顕著な実
例である。神は、イスラエルの人々をエジプトから導き出されたように、ご自分の
民を再臨運動において導かれた。大失望のときに、彼らの信仰は、ヘブル人が
紅海で試みられたような試練を受けた。もしも彼らが、過去の経験において彼ら
とともにあった神の導きの手に、なおも信頼していたならば、彼らは神の救いを
見たことであろう。もしも、1844 年の運動に一致して働いた者がみな、第三天
使のメッセージを受け入れ、聖霊の力によってそれを宣布していたならば、主は
彼らの努力とともに力強く働かれたことであろう。輝かしい光が、洪水のように世
界を覆ったことであろう。何年も前に、地の住民に警告は発せられ、最後の働き
が完結して、キリストはご自分の民を救うためにおいでになっていたであろう。

イスラエル人が荒野を四十年もさまようことは、神のみこころではなかった。
神は、彼らをまっすぐにカナンの地に導いて、彼らをそこで、聖く幸福な国民とし
て定住させようとしておられた。しかし、『彼らがはいることのできなかったのは、
不信仰のゆえで』あった(ヘブル 3:19)。墮落と背信のために彼らは荒野で滅び、
他の者たちが約束の国に入るために起こされた。同じように、キリストの再臨が
このように遅れ、神の民がこのように長く、罪と悲しみのこの世にとどまることは、
神のみこころではなかった。しかし、不信が、彼らを神から引き離した。彼らが
神に命じられた働きをすることを拒んだときに、メッセージを宣言するために他の
者たちが起こされた」(各時代の争闘下巻 182)。

「はいることのできなかったのは不信仰のゆえである」。信じていたら、従い行
き、カナンにはいつていたのです。信仰か行いかという議論がよくなされますが、
ヤコブ書で説明されている「行いを伴わない信仰」とは、行いと信仰について説
明しているのではなく、生きた信仰と死んだ信仰の違いです。

三天使のメッセージを信じると公言するわたしたちはどうでしょうか。まだ主
が来られない理由は何でしょうか。

わが契約を信じること――すなわち、このメッセージをどのように受け入れる
かにすべてがかかっています。

ようと、その言葉にわなをしかけようとしていました。そこで救い主は言われました、「それを聞いた人々に尋ねるがよい」。あなたがたのスパイのもとへ行きなさい。彼らはわたしが何と言ったかを聞いたのだ。彼らはわたしの教えていることが何であったかをあなたに告げることができる。

キリストの言葉は心を探る鋭いものであったので、祭司は自分の囚人がまさに自分の魂を読んでいると感じました。

しかし、アンナスのしもべの一人が、自分の主人にしかるべき敬意が払われていないと思い、イエスさまのお顔を打って、次のように言いました。「大祭司にむかって、そのような答をするのか」。

これに対してイエスさまはおだやかに言われました。「もしわたしが何か悪いことを言ったのなら、その悪い理由を言いなさい。しかし、正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか」(ヨハネ 18:22, 23)。

キリストは、ご自分を助けるために天使の軍勢を天から招集することもおできになりました。しかし、人がご自分の上に積みあげるすべてのあざけりや侮辱(ぶじょく)に耐えることは、このお方の使命の一部でした。

さつま芋のかるかん

■材料

さつま芋 320 g

粗糖 65 g

米粉 (上新粉) 80 g

■作り方

1. さつま芋は皮を厚めにむいて 1cm厚さに切ります。
2. 蒸し器で 15 分くらい竹ぐしを通るまで蒸します。
3. さつま芋をボウルに入れて、熱いうちにつぶし、残りの材料を入れて、フードプロセッサーにかけます。
4. 流し箱に入れます。
5. 沸騰した蒸し器に入れて、蒸し器のフタにキッチンペーパーをおき、強火で 13 分ほど蒸します。
6. 熱いうちに型から抜き出して冷ます。
7. 冷めてから包丁で切り分けます。

山芋のかわりにさつま芋で作るかるかんです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第38話

アンナス、カヤパ、そしてサンヒドリンの前で(1)

ゲッセマネの園からわめく群衆がイエスさまの後についていきました。このお方の両手はきつくしばられていたので、動くにも苦痛を伴いました。そして、厳重に警護されていました。

このお方はまずアンナスの家に連れていかれました。この人は以前は大祭司でしたが、今その地位は義理の息子のカヤパが占めていました。悪人のアンナスは、自分が最初に拘束された囚人であるナザレのイエスに会うことを要求していました。彼はこのお方の有罪を確実にすることができるような何らかの証拠をこのお方から引き出したいと望んでいました。

このことを考えながら、彼は救い主に、その弟子や教えに関して質問しました。キリストは次のようにお答えになりました。

「わたしはこの世に対して公然と語ってきた。すべてのユダヤ人が集まる会堂や宮で、いつも教えていた。何事も隠れて語ったことはない」

それから質問者に向き直って、「なぜ、わたしに尋ねるのか。わたしが彼らに語ったことは、それを聞いた人々に尋ねるがよい」と言われました(ヨハネ 18:20, 21)。

祭司たちは、キリストを見張り、一つ一つの言葉を報告させるために、



自らスパイを置いていました。これらのスパイたちを通して、彼らはこのお方が出席なさった人々の集まりにおいてこのお方がお語りになったことも、このお方のわざも知っていました。スパイたちは、このお方を有罪にできる何かを見つけ

(47 ページに続く)